

御徒士がとどる

9月18日、伝統の上ノ国八幡宮渡御祭が執り行われ、袴に身を包んだ『御徒士』達の行列が同地区を練り歩きました。

この行列は、かつて松前藩が藩祖『武田信廣』の没した上ノ国まで行脚したこと由来し、この日も地域の若者が当時を思わせる御徒士に扮して、『やあ、来たり!』と声を張り上げていました。

御徒士達は、神輿とともに上ノ国八幡宮を出発すると、日暮れまで同地区をくまなく練り歩き、ゆく先々では、その姿を見ようと地域の方々が料理やお酒で出迎えていました。



上ノ国の秋を味わう

9月18日、上ノ国町物産センター連絡協議会（佐藤真治会長）主催による「秋の味覚祭」が道の駅もんじゅで開催されました。

本町の秋の風物詩として、産業まつりとともに恒例となっている秋の味覚祭では、大人気の特産品パーベキューを求めてイベント開始前から長蛇の列ができ、今か今かと待っている様子が印象的でした。

イベントが始まると、会場には秋の野菜や海産物、旬の食材もちいた料理を販売する多彩な店舗が並び、少しでも上ノ国の魅力が味わってもらおうと自慢の一品が振舞われ、それらを求める来場者の活気で満ちていました。



函館で上ノ国特産品が大注目

8月27日から28日にかけて、「道南の食」にスポットを当てたイベント「HAKODATE KUROFUNE 2016」が函館市で開催され、町内の飲食店も参加しました。

このイベントは、道南地域全体が連携して各町の食を発信しようという目的で開催されており、本町からは「夷王亭」と「居酒屋美里」が出店し、フルーツポークの鉄板焼きやアワビのんにくバター焼きなど、まちの特産品を使った料理を出品しました。

イベントに参加した居酒屋美里さんにお話をうかがったところ「多くの方に食べに来て頂いて本当に刺激になった。また、現地で撮影された映像が放送され、それを見て食べたくなったという方が来店された時は本当に嬉しかった」と話し、今後もこうした活動に参加して、上ノ国の特産品をもっとアピールしていきたいとのことでした。



万が一の準備と心構えを

9月8日、津波からの避難を想定した町主催の防災訓練が、上ノ国地区においてはじめて実施されました。

津波が発生した場合、上ノ国地区は上ノ国消防署側、もしくは道の駅もんじゅ側に避難することとなりますが、その中間となる地点に最も住宅が多く、避難に時間がかかる事が予想されています。

参加者の中には初めての避難訓練ということで、家を出たときにどちらが近いか迷ったという声も聞かれ、避難用具などをまとめておく事前準備とともに、避難経路を日頃から意識しておくことの大切さが浮き彫りとなりました。

指定されている避難場所に集まった参加者は、職員から配られた資料に真剣に目とおし、意見交換も行われるなど、万が一に備えるための有意義な訓練となった様子です。

